

計画改定にかかる県民等からの意見聴取の状況について

1 目的

計画の策定初期段階から県民の参画を得ることにより、県民の認識やニーズを計画に反映することを目的とする。

2 対象

環境 NPO 関係者、企業関係者、環境に関心のある県民等

3 これまでの開催状況

- (1) 平成 20 年 5 月 31 日（土） 「地球温暖化防止活動推進員基礎研修会」での意見聴取
参加者：温暖化防止活動推進員 63 名
- (2) 平成 20 年 7 月 26 日（土） 「エコアクション 21 実務者サマー研修」での意見聴取
参加者：企業関係者等 20 名
- (3) 平成 20 年 8 月 24 日（日） 「環境カウンセラー活動報告会」での意見聴取
参加者：環境カウンセラー、環境カウンセラーを目指す NPO 関係者等 20 名

4 意見概要

2030 年まであと 20 年。どのように CO₂ を半減していくのか具体的に示すことが必要。

< 自然・気候 >

琵琶湖から田んぼへの水路確保や稚魚放流をすすめる。
地域活性化とあわせ、ヨシの繁るまちづくりをすすめる。
森林税をもっと有効に活用すべき。
休耕田の活用策の検討。

< 産業 >

営業車を燃料電池車等のエコカーへ切り替える。
中小企業も含め、CO₂ 排出量の把握の義務化。
店舗・業種毎に営業時間、稼働時間を変える取組（自動車のナンバーの末尾制限の例）。

< まちづくり >

自転車道を整備する。
エコ通勤運動を推進する（ポイント化等）。
商業地区、住居地区を近接させ、効率的な移動が可能となるようにする。

< くらし >

パークアンドライド、カーシェアリングの制度を構築する。
ボランティア活動のポイント化など楽しみながら環境保全活動に取り組めるメニューを作る。
家庭版カーボンオフセットのシステム作り。
家庭からの CO₂ 排出量の見える化を進め、削減を促進する。
琵琶湖との関わりを意識した次世代への環境教育の強化。